

株式会社富士通ゼネラル御中

成長シナリオ次第で、株主価値は3,920億円。バリューギャップは2,030億円

貴社を投下資本、超過利潤価値、成長価値などに分解する超過利潤法によって分析した。業績や将来見通し、中期経営計画などをベースに試算した結果、株主価値は3,920億円と推計することが可能である。5年程度で売上高が4,000億円、営業利益が400億円、10年程度で売上高が5,088億円、営業利益が509億円、投下資本の売上高比が現在の39.7%で一定推移となる前提である。株主価値と時価総額のギャップは2,030億円であり（時価総額の107%）、期待形成によってはアップサイドあり。

①株主資本 1,045億円

- 直前四半期末の投下資本は1,131.3億円、投下資本/今期売上高の比は④39.7%と推計。有利子負債等を差し引いて非事業資産を加えた株主資本は1,045.2億円と推計。[株主資本 = 投下資本 - 有利子負債等 + 非事業資産]

②超過利潤価値 686億円

- 今期の税引後営業利益（NOPAT）は約117.5億円、NOPATマージン（NOPAT÷売上高）は⑤4.1%と推計。⑥÷④で算出される投下資本利益率（ROIC）は10.4%となる。
- 投下資本に対し投資家が要求する最低限のリターン、加重平均資本コスト（WACC）について、JPRは株価、財務戦略、事業リスク等から6.5%と推計。1円の投下資本から創出する企業価値の割合を示すROIC/WACCは1.6倍となる。
- これをベースに今期の超過利潤を推計すると44.4億円と推計される。今期のEVAの永久価値（超過利潤価値）は超過利潤÷WACCで計算され、686億円と推計される。

③成長価値 2,189億円

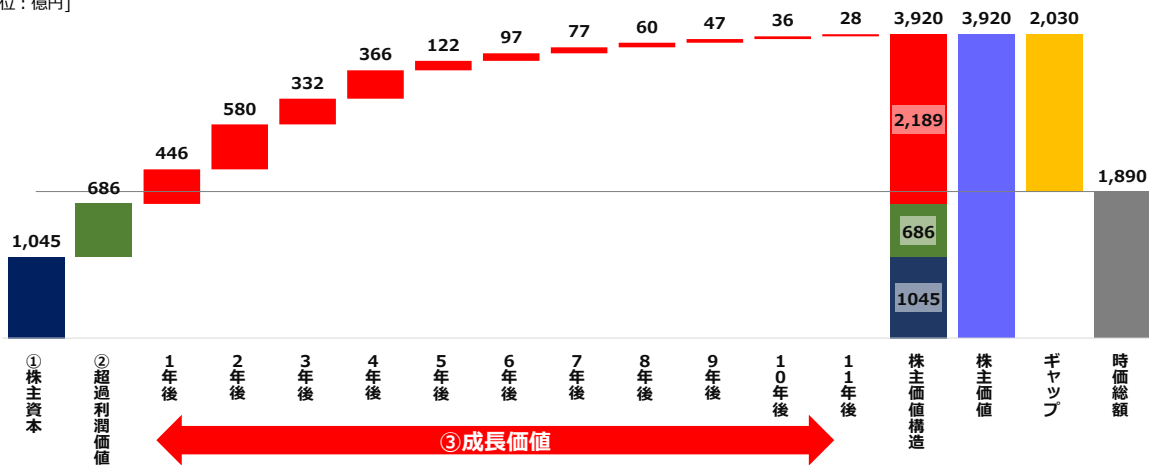
- 5年後の売上高が4,000億円、営業利益が400億円となる前提等で、成長価値は2,189億円と推計。

うち非事業資産 147億円

- 月商1.5か月を超えた現預金など、事業に投下した資本以外の資産は147億円と推計。

超過利潤法による株主価値構造とバリューギャップ分析

[単位：億円]



[会社開示資料等を利用して作成、2018年07月17日時点]

Copyright © J-Phoenix Research Inc. All rights reserved.

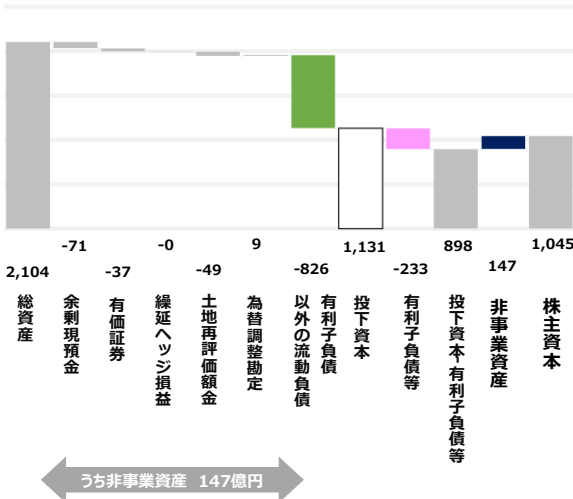
本資料には予想・見直し・目標・計画等の将来に関する事項が含まれております。これは当社が本資料作成時点において入手した情報に基づき、当該時点における予測等を基礎として作成されております。これらの事項には一定の前提・仮定を採用しており、一定の前提・仮定は当社の主観的な予想を含むものを含まれております。また、様々なリスク及び不確実性により、将来において不正確である事が判明し、あるいは将来においてこれらの予想は実現しない事があります。その為、本資料に掲載されている予想・見直し・目標・計画等の将来に関する事項について、当社はそれらの情報を最新のものに随時更新するといふ義務も方針も有していません。同時にその内容の正確性、完全性、公平性及び確実性を保証するものではありません。従いまして、本資料を利用した結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負うものではありません。問い合わせ先：http://j-phoenix.com/contact.html

株式会社富士通ゼネラル御中

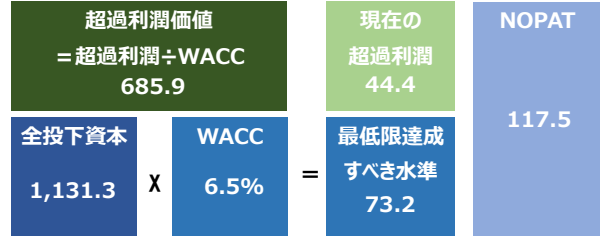
① 投下資本・株主資本

2019年3月期会社計画の売上高2,850億円に対する投下資本の割
運転資本 24.4% 固定資産 15.3%

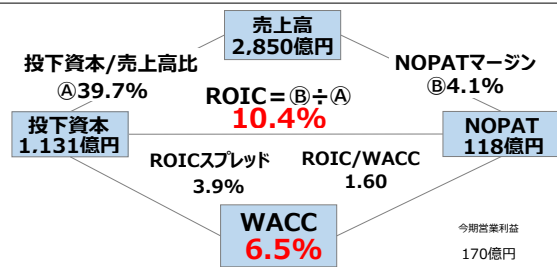
[単位：億円]



② 超過利潤価値



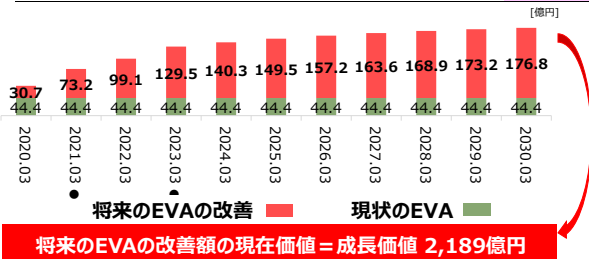
2019年3月期会社計画の超過利潤のドライバー



③ 成長価値

●は中計経営計画の前提がある年度。それ以外はJPRが前提設定。

年度	JPR予測1年後	中計2年後	JPR予測3年後	中計4年後	JPR予測11年後
2020.03	2021.03	2022.03	2023.03	2030.03	
売上高	3,158	3,500	3,742	4,000	5,088
前年比成長率	10.8%	10.8%	6.9%	6.9%	1.6%
営業利益	225.8	300.0	346.4	400.0	508.8
営業利益率	7.2%	8.6%	9.3%	10.0%	10.0%
NOPAT	156.1	207.4	239.5	276.6	351.8
NOPATマージン	4.9%	5.9%	6.4%	6.9%	6.9%
投下資本/売上高	39.7%	39.7%	39.7%	39.7%	39.7%
ROIC	12.5%	14.9%	16.1%	17.4%	17.4%
実効税率	30.9%	30.9%	30.9%	30.9%	30.9%
WACC	6.5%	6.5%	6.5%	6.5%	6.5%

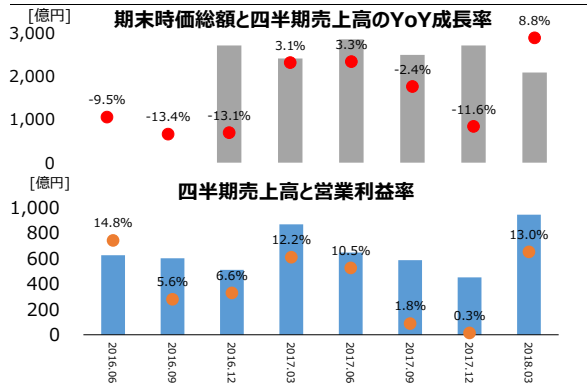


上記期間を超えた成長率は20%づつ減少し、2028年度にはゼロ成長となる前提で成長価値を推計

ご参考情報

過去の業績 (今期は会社計画)

	2015.03	2016.03	2017.03	2018.03	今期計画
売上高	2,748	2,810	2,601	2,623	2,850
成長率	13.8%	2.2%	-7.4%	0.9%	8.6%
営業利益	271.4	275.2	264.9	202.1	170.0
営業利益率	9.9%	9.8%	10.2%	7.7%	6.0%
NOPATマージン	6.8%	6.8%	7.0%	5.3%	4.1%
投下資本/売上高	29.6%	30.4%	38.7%	41.8%	39.7%
ROIC	23.1%	22.3%	18.2%	12.8%	10.4%



[会社開示資料等を利用して作成、2018年07月17日時点]

[1]全投下資本は資本市場から調達して事業に利用されている資産として以下の算式で計算。投下資本 = 総資産 - 売上高の10%を上回る現預金 - 短期有価証券 - 投資有価証券 - 繰延ヘッジ損益 - 有価証券評価差額金 - 為替換算勘定 - 土地再評価額金 - 有利子負債以外の流動負債。[2]WACC (加重平均資本コスト) = 税引後支払利息利回り × D / (E + D) + 株主資本コスト × E / (E + D) Eは時価総額、Dは有利負債残高。株主資本コスト = リスクフリーレート + β × リスクプレミアム。β = 東証の日次リターン (X) と貴社株価日次リターン (Y) の一時回帰式の係数。β = [XYの相関係数] × [ボラティリティ・インデックス (VI)]。[VI] = [Yの標準偏差] ÷ [Xの標準偏差]。一次回帰式の決定係数が0.3以上は、一次回帰式の係数をβとする。決定係数は0.3未満の場合は、貴社の所属する業界平均の無負債βから推計した業界相関係数と貴社のVIからβを推計。リスクフリーレートは0.3%、リスクプレミアムは7%とした。日次リターンは2017年8月までの5年間。

Copyright © J-Phoenix Research Inc. All rights reserved.

本資料には予想・見直し・目標・計画等の将来に関する事項が含まれております。これは当社が本資料作成時点において入手した情報に基づき、当該時点における予測等を基礎として作成されております。これらの事項には一定の前提・仮定を採用しており、一定の前提・仮定は当社の主観的な予想を含むものも含まれております。また、様々なリスク及び不確実性により、将来において不正確である事が判明し、あるいは将来においてこれらの予想は実現しない事があります。その為、本資料に掲載されている予想・見直し・目標・計画等の将来に関する事項について、当社はそれらの情報を最新のものに随時更新するに義務を負うものではありません。同時にその内容の正確性、完全性、公平性及び信頼性を保証するものではありません。従って、本資料を利用した結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負うものではありません。問い合わせ先：
http://j-phoenix.com/contact.html